

**伊勢広域環境組合ごみ処理施設整備事業に係る
都市計画の変更素案および環境影響評価方法書 説明会
議事概要**

【日時】 令和2年6月5日（金）19：00～20：15

【場所】 ハートプラザみその 多目的ホール

【出席者（事務局）】

＜伊勢市役所＞

- ・都市計画課長 中村 哲也
- ・都市計画課計画係長 大西 正峰
- ・都市計画課計画係 大野 明子

＜伊勢広域環境組合＞

- ・事務局長 坂本 進
- ・業務課長 柑子木 清仁
- ・業務課主幹兼整備推進係長 吉村 直樹
- ・業務課整備推進係 竹内 大輔

＜八千代エンジニアリング株式会社＞

- ・市原 正明

【配布資料】

「伊勢広域環境組合ごみ処理施設整備事業に係る都市計画の変更素案および環境影響評価方法書 説明会」（スライド資料）

【参加者】 14名

【質疑応答の概要】

No.	項目	質問の概要	回答の概要
1	事業計画	地震による津波についてはどの程度の高さを想定しているのか。	伊勢市が令和元年度に改定した防災マップによると、津波による浸水想定区域や土砂災害の警戒区域には含まれていません。ただし、施設の整備にあたっては環境省が定めるエネルギー回収型廃棄物処理施設の整備マニュアルに基づき、耐震性や始動用電源の設置など災害に強い施設を作りたいと考えております。
2	事業計画	事業の整備手法はDBO方式とのことだが、他県の事例でダイオキシンの排出量が改ざんされて公表されていたという記事を見た。民間の企業に任せることでこのような改ざんが起らないか不安である。 また、その測定結果は正確な数値を、きちんと広報などで公表していただきたい。	公害に関係するものについては、業者任せにするのではなく、組合で直接測定を行ったり、その情報をホームページで公開したりと、現在も行っておりますが、それと同様の形で対応してまいります。
3	事業計画	処理能力がこれまでよりも小さくなるとのことだが、なぜこのような値になったのか教えていただきたい。	施設の供用開始予定である令和8年のごみ処理量の推計値に、災害廃棄物の10%上乗せした数値で設定しています。なお、処理能力については今後基本計画等の中で随時見直ししてまいります。
4	事業計画	既存施設よりも敷地面積が大きくなるのはなぜか。	新たに発電機能を設ける予定であり、施設の高さが高くなることで、日照への影響も考慮して横幅を広くとるようにしています。また、南北方向については調整池の設置や通路が使用しやすいよう、広く敷地を確保しています。

No.	項目	質問の概要	回答の概要
5	事業計画	既存施設廃止後の土地利用の計画はあるのか。意見を出せる機会があるのであれば、広報などで知らせていただきたい。	既存施設については新たな施設の供用開始後に解体する予定ですが、跡地の利用方法については今後基本設計の中で検討してまいります。 地域の皆様の声を聞きながら、各市町と調整して決めていきたいと考えております。
6	事業計画	方法書には、余熱の利用計画について、場外への供給も行うことが記載されている。基本構想の段階では場外への供給については言及がなかった。どういうことを想定した記載なのか。	基本構想では、地域に親しまれる施設や地域社会に貢献できる施設とする、ということ掲げており、熱利用の能力がある施設を整備できるのであれば、場外供給という形での熱の利用も可能ではないかということで記載しました。ただ、現時点では具体的な内容は決定しておらず、今後検討していきたいと考えております。
7	アセス手続き	準備書や評価書はいつごろ出てくるのか。また、準備書ができ次第、地元への説明はあるのか。	準備書の公表は来年の11月ごろを予定しており、今回と同じように事前に周知の上、説明会を開催いたします。
8	アセス手続き	環境アセスメントの評価の中で、何らかの項目で基準値をオーバーしたり、不都合な物が見つかったりしたときの対策をどう考えているのか。 例えば土器などが見つかった場合に、工期が伸びるという感覚はあるのか。	事業を推進するため、その内容に応じて必要な措置を講じてまいります。 なお、今回の環境アセスメントの中では史跡の項目は選定していませんが、工事中に土器などが出てきた場合には工事の一時中断もありうるかと考えております。
9	項目選定	周辺に埋蔵文化財があるのにも関わらず、なぜ調査もせず非選定なのか。	文献での調査の結果、工事や施設の稼働により影響を受ける範囲に文化財は確認されていないことから、評価項目として選定していません。

No.	項目	質問の概要	回答の概要
10	関係地域	大気質の調査範囲を3kmとしているがその根拠は何か。市街地の広がりも考えると関係地域が3kmというのは狭すぎるのではないか。	現在検討している本施設の規模と類似の事例でのシミュレーションの結果を見ると、最大着地濃度出現距離は概ね1km程度となっており、環境省の指針ではその2倍を見込んで設定することとされています。今回、指針より広範囲の3kmに設定しており、十分な調査範囲であると認識しています。
11	温室効果ガス	温室効果ガスについて、この計画により温室効果ガスを何パーセント削減できるのか。現在何トンで、新たな施設では何トンの温室効果ガスになるのか。	基本計画においても温室効果ガスの影響ということも念頭に置きながら検討を進めているところです。 現段階では予測できるだけの材料が揃っていない状態ですが、準備書の段階では何パーセント削減できるのか等をお示しする予定です。